

平成29(2017)年度「とちぎ創生アイデア会議」で出されたアイデアを踏まえた
平成30(2018)年度の新たな取組事例

(1)産業振興に関するアイデア

【アイデア1】

若い世代による起業を増やし、地域を活性化させるためには、創業や新たな事業展開について気軽に相談できる体制の充実が図られるとよいのでは！

これまでの取組

- ・ 創業塾、創業支援資金融資、アドバイザーによる創業相談を実施
- ・ 商工会議所及び商工会において創業に関する相談に対応



平成30(2018)年度の新たな取組

- ・ 創業後間もない経営者の課題解決や人的ネットワーク形成のための講演会、個別相談会を特定の業種で実施
- ・ 創業後、成長発展を目指す企業が効果的なプレゼンテーションができるよう、個別型セミナーを実施
- ・ 創業相談窓口について市町においても広報するよう働きかけるなど、広く周知を図る。

【アイデア2】

益子焼の振興に向けた海外への販路開拓に当たっては、一過性のイベントだけでなく、海外輸出が定着するよう、取引窓口の明確化など継続的な取組が必要では！

これまでの取組

- ・ 米国の販路開拓のため、ニューヨークで「とちぎの器」の展示即売会を実施
- ・ 海外向け商品開発研究会を立ち上げ、海外でのニーズに対応した新たな商品開発を支援

平成30(2018)年度の新たな取組

- ・ 窯業技術支援センターに整備した益子焼等活性化拠点を活用し、海外向け商品の耐久試験や製造者間の交流促進に取り組み、益子焼等の海外輸出を支援



(2)農業の成長産業化に向けたアイデア

【アイデア3】

6次産業化による農産物の高付加価値化に取り組んでいるが、米を主とした土地利用型の農業経営は収益化が難しい。農業の成長産業化のためには、新たな取組が必要なのでは！

これまでの取組

- ・ 担い手への農地集積・集約化による規模拡大や低コスト化の取組を支援
- ・ 施設園芸を中心とした園芸振興

平成30(2018)年度の新たな取組

- ・ 平成30年産からの米政策の見直しに対応して、水田における露地野菜等への転換を進めるため、モデル園芸団地の形成に対する支援を実施



【アイデア4】

「にっこり」の試食販売を県外で行っているが認知度が低いと感じている。販売向上のためには、全国的な知名度を上げる取組が必要なのは！

これまでの取組

- ・「栃木の農産物ブランド価値向上戦略」において県産農産物を牽引するリーディングブランドに「にっこり」を追加

平成30（2018）年度の新たな取組

- ・「にっこり」の認知度向上のため、メディアを活用したPRや首都圏における販売促進イベントを実施



【アイデア5】

農産物は、各産地で様々なPRをしているが、栃木の農産物を印象付けるには、全国的に有名な栃木の「いちご」を活用したインパクトのあるPRが必要では！

これまでの取組

- ・いちごの生産量が50年連続日本一となることを見据え、平成29年度から1月15日を「いちご王国・とちぎの日」として、県全域でいちごをテーマとした集中プロモーションを実施

平成30（2018）年度の新たな取組

- ・「いちご王国・栃木」確立のためのプロモーション等を県内だけでなく全国においても展開
- ・デスティネーションキャンペーンと連携した県産農産物PRの実施



(3)観光誘客に関するアイデア

【アイデア6】

近年、外国人を含め観光客が増加しているが、「栃木にまた来たい」と心から思ってもらうためには、「おもてなし」が重要では！

これまでの取組

- ・おもてなし日本一の栃木県を目指し、平成29年4月に「観光立県とちぎの実現に向けたおもてなしの推進等に関する条例」を施行
- ・企業、団体、個人等を「おもてなしいちご隊」として募集登録し、様々な主体による「おもてなし」の実践を促進

平成30（2018）年度の新たな取組

- ・「おもてなしエピソード」の募集・フィードバックにより、観光事業者のおもてなしスキルアップを支援



(4)とちぎへの人の還流に関するアイデア

【アイデア7】

農村や里山には、自然や文化などの地域特有の資源が多くある。地域の活性化につなげるため、地域資源を生かしたグリーン・ツーリズムやエコツーリズムを推進してはどうか！

これまでの取組

- ・地域資源を組み合わせた滞在プログラムを企画、運営する人材の養成、地域の体験交流活動等を支援

平成30（2018）年度の新たな取組

- ・滞在型グリーン・ツーリズムの相談窓口を県庁に設置し、地域のグリーン・ツーリズムの組織化に向けた支援（専門アドバイザー派遣等）を実施



【アイデア8】

地域プロモーションの仕事は東京の制作会社が携わっている場合が多い。地元栃木からの発信力を向上させるためには、業務の発注などを通じて県内の若手クリエイターの育成が必要では！

これまでの取組

- ・とちぎの魅力を伝える動画の作成や発信、首都圏でのプロモーションを実施

平成30（2018）年度の新たな取組

- ・とちぎの魅力を伝えるプロモーションにおいて、県内の若者から募った意見やアイデアを取り入れた動画を新たに作成し、ウェブサイトで発信



(5)地域共生社会の実現に関するアイデア

【アイデア9】

地域で丸ごと支えあう仕組みをつくるため、高齢者や障害者も含めた様々な方々が一緒に集える場所を作り、県内へ広めていくと良いのでは！

これまでの取組

- ・「総合的福祉人材育成推進会議」を立ち上げ、国が進める「我が事・丸ごと地域共生社会」の実現に向けた人材育成のあり方等について検討

平成30（2018）年度の新たな取組

- ・「我が事・丸ごと地域共生社会」の実現に関するトップセミナーの実施等を通じて、市町や社会福祉法人による取組を促進
- ・複合的な課題を抱える者に対する包括的な支援体制の中核を担う相談支援コーディネーター養成研修を実施



【アイデア10】

農業と福祉が連携した6次産業化に取り組み商品化を実現させたが、販売面で苦慮している。製品開発だけでなく、販売戦略の企画立案に係る支援が必要では！

これまでの取組

- ・障害者施設での商品開発や販路拡大に向けた取組を促進するため、商業分野の専門家を講師とする講習会を実施

平成30（2018）年度の新たな取組

- ・講習会の対象者をこれまでの施設職員から施設管理者まで拡充し、販路拡大を支援